



Prevalence, Predictors, and Mid-Term Outcomes of Non-Home Discharge After Transcatheter Aortic Valve Implantation

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 武藤, 雄紀 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000385

論文内容要旨

しめい 氏名	むとう ゆうき 武藤 雄紀
学位論文題名	Prevalence, Predictors, and Mid-Term Outcomes of Non-Home Discharge After Transcatheter Aortic Valve Implantation (経カテーテル的大動脈弁植込み術後の非自宅退院患者に関する予測因子および予後に関する検討)
大動脈弁狭窄症は高齢者に多い疾患である。根本的治療として、従来は外科的大動脈弁置換術のみであったが、近年、経カテーテル的大動脈弁植込み術 (Transcatheter Aortic Valve Implantation; TAVI) が施行可能となり、高齢者や外科的治療の高リスク症例に対する治療が可能となった。一方、術前の併存疾患や日常活動動作レベルにより、TAVI 後に自宅退院が困難な患者が存在し問題となっている。本研究では TAVI 後の非自宅退院に関する予測因子および予後に関して検討した。 2013 年-2019 年に榊原記念病院で重症大動脈弁狭窄症に対して TAVI を施行した 732 名を対象に、自宅退院群 678 名(92.6%)と非自宅退院群 54 名(7.4%)の 2 群に分類し、両群における患者背景および退院後の生命予後に関して比較検討した。自宅退院群に比して非自宅退院群では、心不全症状の重症度を示す NYHA 分類や外科的手術リスクスコアである STS score や Logistic Euro score が高値であり、高血圧、末梢動脈疾患、心房細動、脳梗塞の既往が高率であった。血液検査所見では、自宅退院群に比して非自宅退院群で、NT-pro BNP は高値、血清アルブミンは低値であり、また心エコー検査では左室駆出率が低く、中等度以上の僧帽弁逆流の割合が高率であった。TAVI の手技関連合併症に関して、自宅退院群に比して非自宅退院群で、TAVI 後の脳梗塞と中等度以上の大動脈弁逆流の合併割合が高率であった。非自宅退院の予測因子に関して、多変量ロジスティック回帰解析では、末梢動脈疾患 (オッズ比 [OR] 2.73、95%信頼区間 [CI] 1.25-5.97、P=0.012)、脳梗塞の既往 (OR 2.57、95%CI 1.03-6.45、P=0.045)、血清アルブミン値 (OR 0.16 per 1-g/dL increase、95%CI 0.07-0.39、P<0.001)、TAVI 後脳梗塞 (OR 31.6、95%CI 10.9-91.7、P<0.001) が独立した予測因子であった。退院後の生命予後に関して、平均 696 日の観察期間にて、94 名の総死亡を認め、内訳は 19 名(20.2%)が心臓死、75 名(79.8%)が非心臓死であった。Kaplan-Meier 解析では、自宅退院群に比して非自宅退院群の生命予後は不良であった(log-rank、P<0.001)。多変量 Cox 比例ハザード解析では男性、心房細動、低アルブミン血症は退院後の死亡に関する独立した予測因子であったが、非自宅退院は予測因子ではなかった(P=0.18)。 TAVI 後の非自宅退院の割合は 7.4%であり、末梢動脈疾患の既往、低栄養状態、脳梗塞の既往および TAVI 後の脳梗塞合併に関連し、自宅退院群と比較して中期の生命予後は不良であった。	

This paper was published in Circulation Reports 2020; 2: 617-624.

学位論文審査結果報告書

令和4年 2月 15日

大学院医学研究科長 様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

【審査結果要旨】

氏名 武藤 雄紀

学位論文題名

Prevalence, Predictors and Mid-Term Outcomes of Non-Home Discharge After Transcatheter Aortic Valve Implantation (経カテーテル的大動脈弁植え込み術後の非自宅退院患者に関する予後因子および予後に関する検討)

上記論文について、令和4年 2月 8日に審査会を行った。

はじめに申請者より論文内容の説明があった。本論文は、経カテーテル的大動脈弁植え込み術 (Transcatheter Aortic Valve Implantation : TAVI) を施行した 732 名を対象に、自宅退院群と非自宅退院群の 2 群に分類し、患者背景および退院後の生命予後に関して比較検討を行った研究である。主な結果として、1) 非自宅退院の予測因子として、末梢動脈疾患、脳梗塞の既往、血清アルブミン値、TAVI 後脳梗塞が独立した予測因子である、2) 非自宅退院群の生命予後は不良である、3) 退院後死亡の独立した予測因子は、男性、心房細動および低アルブミン血症であり、非自宅退院は予測因子ではなかった。

なお、本論文は 2020 年に Circulation Report に掲載されている。

発表に引き続いて主査・副査を含む審査員との質疑応答を行なった。審査員からは、本研究の臨床的意義、脳梗塞の発生機序に関する検討、統計学的手法の妥当性などについての質問があった。申請者は、これらの質問に対して的確な回答を行い、申請者の本研究に対する貢献度と理解度が極めて高いことを示した。

本論文は、研究デザイン、データの取扱いおよび結果の考察も妥当である。また、社会的要因が多く従来取り上げられなかった非自宅退院に関する予測因子を見出し、自宅退院へ向けた TAVI の合併症予防への発展など研究の将来性も高く、新規性の観点からも優れた論文である。

以上より、本論文は学位論文としてふさわしいと判断した。

論文審査委員	主査	横山 斉
	副査	島袋 充生
	副査	各務 竹康